

「衝撃緩和帽」SG基準の制定のお知らせ



「衝撃緩和帽」のSG基準が2021年1月に制定されました。衝撃緩和帽とは、日常生活における様々な状況での頭部に対する衝撃を吸収し、怪我・痛み等の程度を軽減させる帽子※1であり、主にクッション材が入っている繊維製の帽子です※2。

SG基準では1歳以上の未就学児や小学生が通園・通学時、体育や遊び場などでの運動時に使うものと、大人が家庭での軽作業（物品移動、庭仕事、大掃除、DIY等）で使うものを対象としています。SG基準における型式区分と用途は以下の表の通りとなります。

※1 すべての衝撃から頭部を守るものではなく、痛みの軽減や裂傷を防ぐということを目的としたものです。

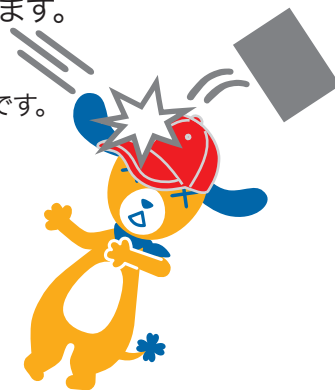
※2 ヘルメットのように硬質な素材で構成されているものは対象外です。

▶型式区分

要素	区分
用途	(1) A型：1～6歳区分 (2) B型：6～12歳区分 (3) C型：軽作業用
形状	(1) キャップ型 (2) ハット型 (3) インナーキャップ型
衝撃緩和材の保護範囲	(1) 全部を保護するもの (2) 頭周囲を保護するもの
衝撃緩和材の形状	(1) シート型のもの (2) ビーズ型のもの (3) その他のもの
洗濯の可否	(1) 洗濯可能のもの (2) 洗濯不可のもの

▶用途

呼称	用途（使用対象）	内容
A型	1～6歳区分 (未就学児用)	1歳以上の未就学児が通園用、体育用、遊び場・イベント会場用として使うもの
B型	6～12歳区分 (小学生用)	小学生が通学用、体育用、遊び場・イベント会場用として使うもの
C型	軽作業用	家庭での物品移動、庭仕事、大掃除、DIY等で使用するもの



検査内容は構成、外観・構造確認、衝撃緩和性試験、材料確認、表示及び取扱説明書の確認があります。ここでは、衝撃緩和帽の性能を評価する「衝撃緩和性試験」をご紹介します。

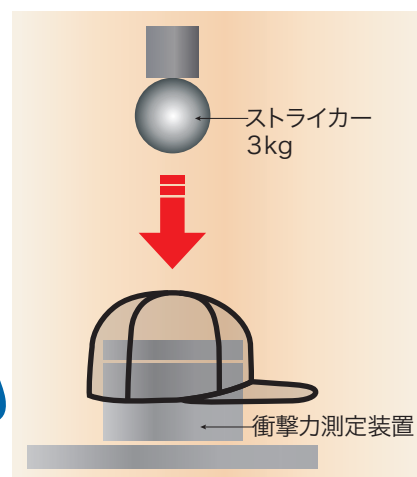
【衝撃緩和性試験】

衝撃緩和帽を衝撃力測定装置に取り付け、3kgのストライカーを区分ごとに下記表の高さから落下させたときの衝撃力を測定する。衝撃力の最大値が下記表の各区分の基準値以下かつ、試験後に使用上支障のある破損等がないこと。なお、測定は衝撃緩和帽の前頭部・後頭部・側頭部・頭頂部（全周囲保護に限る）について行う。

※洗濯できるものにあつては洗濯表示に合わせた洗濯を3回実施した後に行う。

洗濯についてはJIS L1930「繊維製品の家庭洗濯試験方法」に従う。

用途の種類	落下高さ	衝撃力の最大値
A型	49mm	1,200N以下
B型	82mm	2,500N以下
C型	167mm	2,900N以下



その他ご希望される商品・試験がございましたら、お客様の要望に応じてご提案させていただきますので、お気軽にご相談ください。

上記の内容についてご不明な点等ございましたら、こちらまでお問い合わせください。



東京生活用品試験センター | TEL:03-5669-1382 / FAX:03-5669-1387
大阪生活用品試験センター | TEL:06-6577-0124 / FAX:06-6577-0126